

日本海沿岸東北道

村上都市計画道路1・5・4号 朝日山北幹線道路

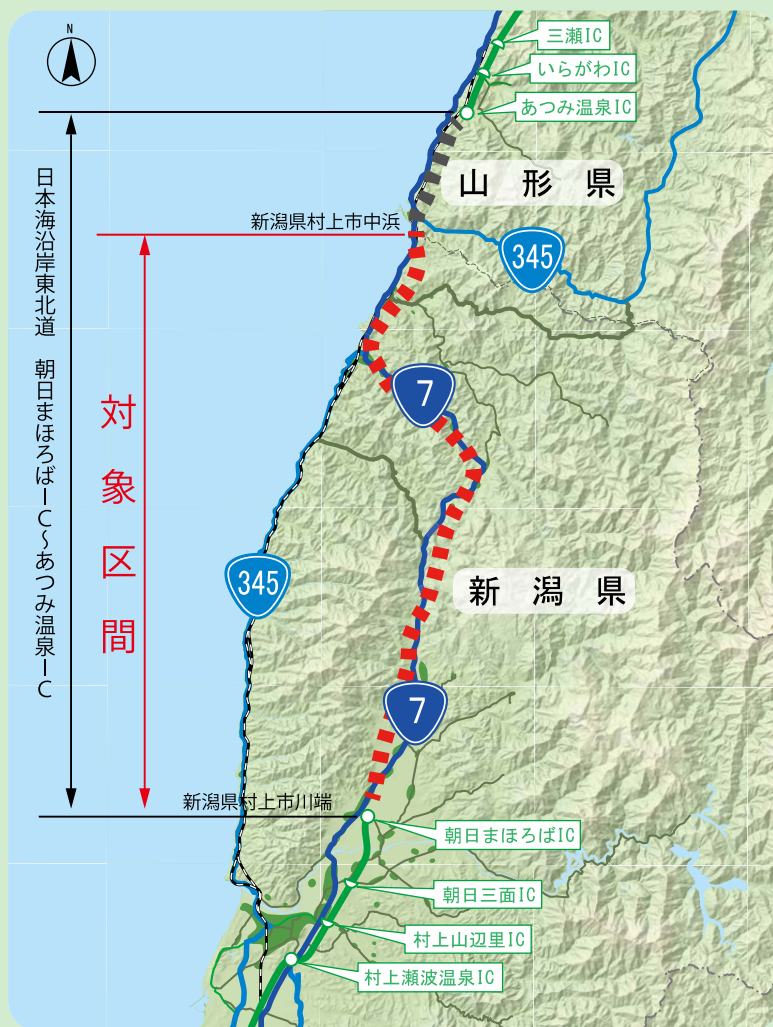
道路整備により、皆さんの暮らしや自然環境等にどのような影響を与えるかについて環境の調査を行いました

日本海沿岸東北道 朝日まほろばIC～あつみ温泉ICについては、平成23年11月に皆様から頂いたご意見を参考に、計画段階評価を実施し、ルート帯を決定した区間です。

現在、上記区間については、ルート等の具体的な計画について都市計画法に基づく都市計画決定の手続きに着手しています。

なお、村上都市計画道路1・5・4号朝日山北幹線道路は、上記区間のうち、新潟県側の都市計画道路名です。

当該道路においては、都市計画の策定にあわせて、道路整備により環境に与える影響を調査・予測・評価し、有識者からの技術的助言を頂きながら、適切な保全措置を検討する環境影響評価にも着手しています。



【事業化までの流れ】

日本海沿岸東北道 朝日まほろばIC～あつみ温泉ICは、地域の皆様の意見を参考に検討を行い、ルート帯を決定しました。
現在は、ルートやインターチェンジの位置について計画案を作成し、都市計画決定の手続きに着手しています。

計画段階
評価

第三者委員会や意見募集・アンケート調査を実施し、ルート帯の検討を行いました。

環境影響評価
・都市計画

環境への影響を確認するとともに、都市計画を策定します。

新規採択時
評価

工事等に着手する前に事業の必要性を確認します。

事業化

現地の測量や用地取得、工事に取りかかります。

今回はここです

事業の目的

村上都市計画道路1・5・4号朝日山北幹線道路は、当該地域における急な坂や急カーブ、頻繁に起きる通行規制、沿道の安全性の低下等の問題を解消することを目的に計画された都市計画道路です。

この道路は、5つの政策目標「最短時間で結ぶ災害に強い物流経路の確保」、「『いのちをつなぐ道』の機能強化」、「日常生活の安全性向上」、「リダンダンシー（代替路）の確保」、「観光振興の促進」を踏まえた自動車専用道路です。

起終点	新潟県村上市川端 ～ 村上市中浜	車線数	2車線
延長	約34.4km	設計速度	時速80km
道路区分	第1種第3級（自動車専用道路）		

環境影響評価の実施について

当該路線の周辺は豊かな自然環境に恵まれており、猛禽類等の貴重種が確認されていることや、瀬波笹川流れ栗島県立自然公園、重金属を含む鉱山跡地等の近傍を通過することから、環境への影響を把握するとともに、これらの影響について十分に配慮する必要があります。

このような背景をふまえ、環境影響評価法及び新潟県環境影響評価条例に準じた調査・予測・評価を実施することとしました。

【環境影響評価項目】

影響要因の区分	環境要素の区分	大気	騒音	振動	低周波音	水質	地形及び地質	日照障害	土壌	動物	植物	生態系	景観	人と自然との活動の触れ合い	廃棄物等
		○	○	○		○	○		○	○	○	○			○
工事の実施		○	○	○		○	○		○	○	○	○			○
存在及び供用		○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	

環境要素の区分は、「国土交通省令」における参考項目及び「新潟県環境影響評価技術指針」における標準項目から設定しました

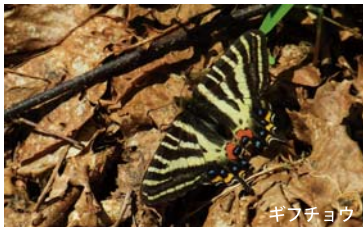


調査の内容

村上都市計画道路1・5・4号朝日山北幹線道路の環境影響評価は、当該地域の状況を踏まえ、4つの視点から調査を行います。

生態系への影響

動物/植物/生態系 など



当該地域は、深い谷に刻まれた山地樹林が広がり、低地部には水田や草地環境が点在するなど、多様な環境が形成されています。

このような自然環境では、クマタカやギフチョウをはじめとした貴重な動植物が数多く生息・生育しています。

貴重な動物や植物及び生態系を対象とし、事業の実施による影響を予測します。

自然環境への影響

水質/地形及び地質/土壌 /廃棄物等など



当該地域は、蒲萄鉦山や大沢鉦山などの鉦山跡地が多く分布しています。

また、低地部や谷部を流れる大小の河川、沢へは、工事の実施により濁水が流れ込まないよう配慮が必要です。一方「笹川流れ」などの重要な地形にも配慮する必要があります。

こうした土壌汚染、水の濁り、地形の改変の影響を予測します。

日常生活への影響

大気質/騒音/振動/低周波音/日照など



事業の実施にともない、工事中の建設機械や工事用車両による粉じん等、騒音、振動が発生することから、人々の生活に影響を及ぼさないよう配慮が必要です。

また、供用後の自動車の走行による騒音、振動、低周波音、道路による日照阻害などに関しても、人々の生活に影響を及ぼさないよう配慮が必要です。

これらの影響について、定量的に予測します。

人と自然との触れ合いへの影響

景観/人と自然との触れ合いの活動の場など



当該地域には、笹川流れなどの景観資源、朝日みどりの里などの自然との触れ合いの場が多く存在します。

道路ができることにより、これらの景観や自然との触れ合いの場がどのような影響を受けるかを予測します。

今回対象となる地域

対象となる地域周辺には、「笹川流れ」や「明神岩」などの風光明媚な景観や、クマタカなどの猛禽類が生息する自然豊かな環境が残されています。一方で、鉱山跡地などが広く分布しており、事業に当たっては慎重な配慮が求められます。

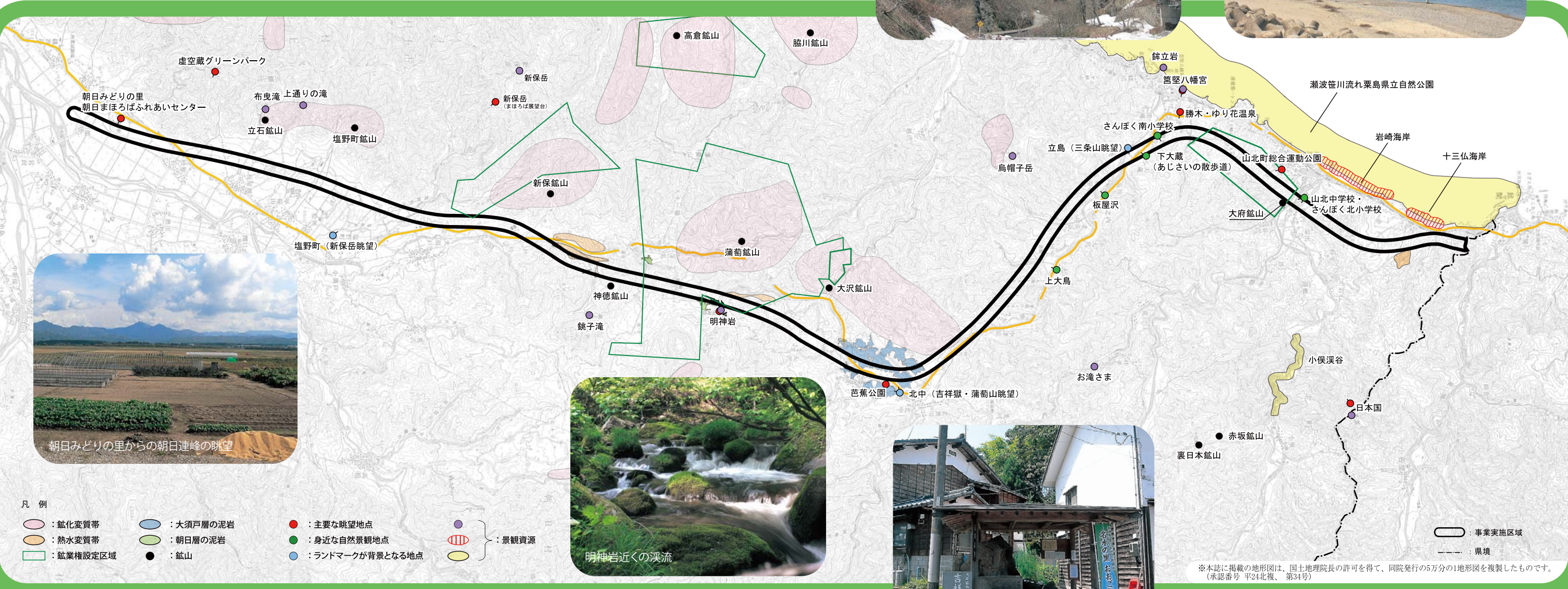
このような地域の特性を踏まえ、日常生活や自然環境に関する項目に対して環境影響評価を実施し、影響の有無を予測しています。



朝日地区の山並み



府屋地区の海岸



ヒツジグサ



ミズマツリ



スズサイコ



ヒメシャガ



ヤナギスブタ



タカネマスクウ



クマタカ



ミサゴ



サンバ



オオタカ

生態系への影響

動物/植物/生態系 など

動物

文献・既往調査及び現地調査で確認された 93 種の重要な種のうち、ミサゴ、オオタカ、サシバ、クマタカの 4 種については、工事実施により影響が及ぶ可能性があると予測されました。従って、下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 低騒音型建設機械の使用
- 工事用車両の徐行運転の実施
- 騒音振動の低減について建設作業員への周知徹底
- 建設作業騒音への馴致（コンディショニング）
- 工事実施時期の調整

なお、生息状況および繁殖状況の監視の結果、何らかの変化が確認できた場合には、必要に応じて、専門家の指導、助言を得ながら、道路建設に伴う生息環境への影響を回避又は低減・代償するよう適切な措置を検討します。

植物

文献・既往調査及び現地調査で確認された 121 種の重要な種のうち、ヒツジグサ、ミズマツバ、スズサイコ、ヤナギスプタ、ヒメシャガ、タカネマスキサの 6 種については、工事の実施により影響が及ぶ可能性があると予測されました。

従って、下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 個体の移植
- 改変面積の最小化
- 踏圧等による影響の回避
- 濁水発生の抑止

なお、上記の保全措置については、工事の実施前に分布や生育環境について調査を行い、必要に応じて、専門家の指導、助言を得ながら、道路建設に伴う生育環境への影響を回避又は低減・代償するよう適切な措置を検討します。

生態系

地域を特徴づける生態系区分である「山地の樹林生態系」と「低地・谷津田の生態系」の構成種であり、それらの生態系の指標となる注目種のうち、クマタカ、サシバの 2 種については工事の実施により影響が及ぶ可能性があると予測されました。

従って、右に示す環境保全措置を実施するものとします。

- 低騒音型建設機械の使用
- 工事用車両の徐行運転の実施
- 騒音振動の低減について建設作業員への周知徹底
- 建設作業騒音への馴致（コンディショニング）
- 工事実施時期の調整

なお、生息状況および繁殖状況の監視の結果、何らかの変化が確認できた場合には、必要に応じて、専門家の指導、助言を得ながら、道路建設に伴う生息環境への影響を回避又は低減・代償するよう適切な措置を検討します。

自然環境への影響

水質/地形及び地質/土壌 /廃棄物など

水質

計画路線と交差する河川内には橋脚を極力設置しない計画のため、水底の掘削等による水の濁りは生じないものと予測されます。

ただし、河川周辺の切土工等の工事により、降雨時に濁水が河川に流入するおそれがあるため、必要に応じて下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 土工部の速やかな転圧
- 法面の早期緑化
- 土のう積み又は土砂流出防止柵
- 仮設沈砂池

地形及び地質

事業実施区域周辺には重要な地形として「笹川流れ」があり、重要な地質として「朝日村大須戸の植物化石」、「大崎のドレイイト岩床」、「日本国片麻岩」がありますが、計画道路から離れており、直接的な改変がないことから、環境影響はないと予測されます。

従って、環境保全措置は実施しないものとします。

土壌

蒲萄鉾山や大沢鉾山の鉾化変質帯等では、重金属による汚染が残留している可能性があるものの、改変を極力回避するとともに、「切土・トンネル構造」を極力避けて、「盛土・橋梁構造」を採用することから、環境影響の程度は極めて小さいものと予測されます。

なお、トンネル掘削区間及び一部の切土部については、鉾化変質帯及び熱水変質帯を極力回避するものの、掘削時に鉾脈に遭遇した場合は、汚染土壌が拡散される可能性が想定されます。

従って、トンネル掘削区間及び一部の切土部においては、工事実施前のボーリング調査及び工事中のモニタリング調査を実施し、高濃度の重金属が検出された場合にはこれらの影響を回避するため、必要に応じて下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 工事中の排水処理設備の設置
- 汚染土壌の浄化・封じ込め

廃棄物等

対象道路の工事に伴う建設副産物の概略発生量として、約 79 万 m³ の残土が発生するものと想定されますが、再利用、再生利用を図るとともに、関係法令等を遵守し適正に処理・処分を行うことから、環境影響の程度は極めて小さいものと予測されます。また、事業実施区域周辺には鉾山跡地等が存在するため、鉾脈に遭遇した場合、トンネル掘削により発生する土砂に重金属等を含むおそれがあります。高濃度の重金属等が確認された場合には適切に処置を行います。

なお、影響を回避又は低減させるため、下記に示す環境保全措置を実施するものとします。

- 再資源化施設への搬入等による他事業等での利用
- 工事間流用の促進

日常生活への影響

大気質/騒音/振動/低周波音/日照など

大気質

大気質について、自動車の走行による影響は、人体への影響が想定される二酸化窒素と浮遊粒子状物質の濃度を予測し、また、工事中的影響は、建設機械の稼働と工事用車両の通行に伴う粉じん等の量を予測し、整合を図るべき基準等との比較により、環境影響の程度は極めて小さいと判断しました。従って、環境保全措置は実施しないものとします。

■自動車の走行による影響

予測結果		整合を図るべき基準等
二酸化窒素 (ppm)	0.010～0.016	0.04～0.06以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.037～0.052	0.10以下

騒音

騒音について、自動車の走行による影響は、昼間と夜間の予測をそれぞれ行い、また、工事中的影響は、建設機械の稼働と工事用車両の通行について予測し、整合を図るべき基準等との比較により、環境影響の程度は極めて小さいと判断しました。

■建設機械の稼働・工事用車両の運行による影響

予測結果(dB)		整合を図るべき基準等
建設機械の稼働	81～85	85
工事用車両の運行	67～71	75

なお必要に応じて、下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 工事用車両の集中を避けた分散通行
- 作業方法の改善（制限速度の遵守の指導）

振動

振動について、自動車の走行による影響は、昼間と夜間の予測をそれぞれ行い、また、工事中的影響は、建設機械の稼働と工事用車両の通行について予測し、整合を図るべき基準等との比較により、環境影響の程度は極めて小さいと判断しました。従って、環境保全措置は実施しないものとします。

■建設機械の稼働・工事用車両の運行による影響

予測結果(dB)		整合を図るべき基準等
建設機械の稼働	62	75
工事用車両の運行	33～46	65

低周波音

低周波音について、橋梁等の近傍に存在する家屋がある地域を対象に、自動車の走行による影響を予測し、整合を図るべき基準等との比較により、環境影響の程度は極めて小さいと判断しました。

従って、環境保全措置は実施しないものとします。

日照障害

事業実施区域周辺において、日影の影響を受ける可能性のある2階建住居等が立地するため、予測を行いました。

その結果、住居位置（地上4.0m高さ）の日影時間は、2時間～4時間以下（『桁下からの日照』を考慮）と予測され、目標値（5時間）以下となりました。

従って、日照障害に係る環境影響の程度は極めて小さいと判断されるため、環境保全措置は実施しないものとします。なお、必要に応じて「高架構造物の上下部工の形式・配置の工夫」を検討します。

人と自然との触れ合いへの影響

景観/人と自然との触れ合いの活動の場など

景観

事業実施区域周辺における主要な眺望点や景観資源は、下表に示すとおりです。

区分	地点名称
主要な眺望点	朝日みどりの里、虚空蔵グリーンパーク、明神岩、芭蕉公園、山北町総合運動公園、さんぽく南小学校、さんぽく北小学校 等
景観資源	上通りの滝、新保岳、銚子滝、明神岩、烏帽子岳、小俣溪谷 等
主要な眺望景観	朝日みどりの里・朝日まほろばふれあいセンター、虚空蔵グリーンパーク、芭蕉公園、山北町総合運動公園、日本国、下大蔵・あじさいの散歩道 等

道路の存在により、眺望景観の変化が生じるおそれのある地点では、いずれの地点からも計画道路が視認できるものの、圧迫感を与えるほどではないと考えられることから、環境影響は極めて小さいものと予測されます。ただし、必要に応じて下記の環境保全措置を実施するものとします。

- 周辺環境と調和した法面の緑化
- 道路構造物や道路付属物のデザイン、色彩等の検討

人と自然との触れ合いの活動の場

事業実施区域周辺の主要な「人と自然との触れ合いの活動の場」は、右に示すとおりです。

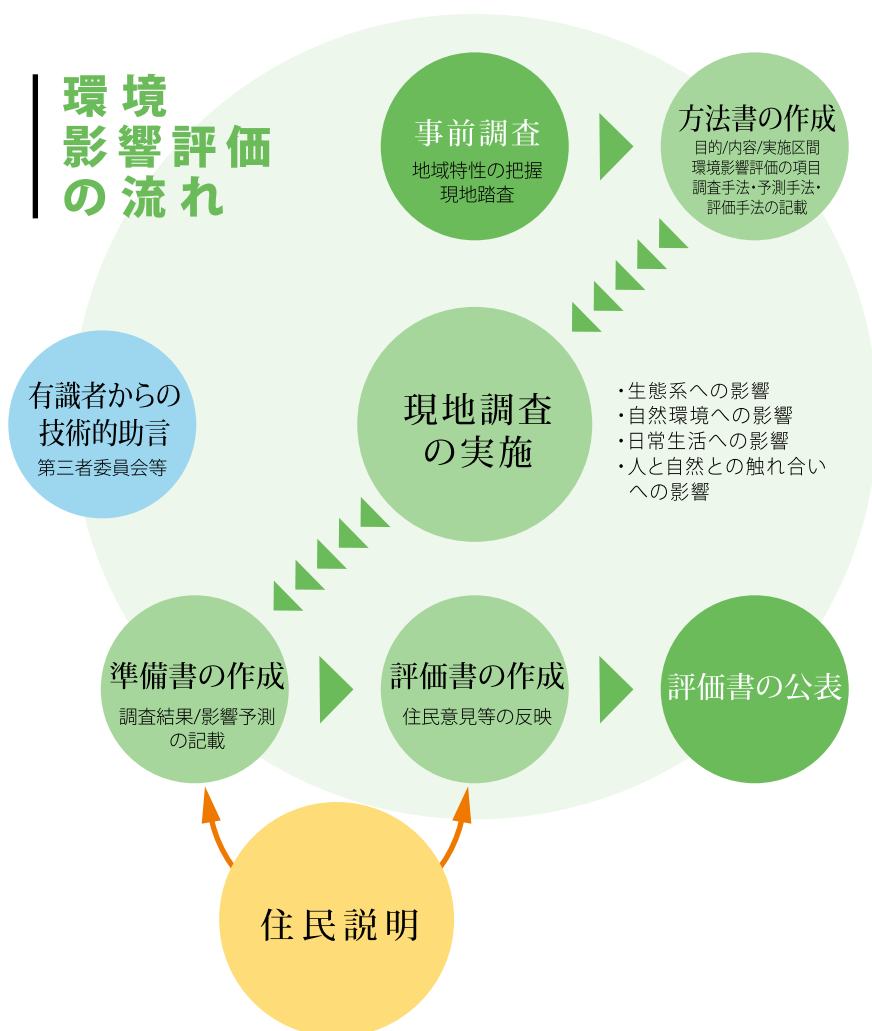
これらに対する道路建設による影響は、可能な限り直接的な変化がないよう計画していることから、極めて小さいと判断しました。

従って、環境保全のための措置は実施しないものとします。

人と自然との触れ合いの活動の場
朝日みどりの里・朝日まほろばふれあいセンター、山北町総合運動公園
明神岩、吉祥清水
勝木川（板屋沢橋・立島橋）、大川（大川橋・府屋橋）

環境影響評価の手続きについて

環境影響評価の流れ



方法書

事業の内容(事業特性)や事業実施区域及びその周囲の概況(地域特性)に基づく、環境影響評価の項目・手法についての事業者の案について、住民説明を行うことにより、事業の早期段階から環境への配慮を事業計画に反映させることを目的として作成されるもの

準備書

方法書に示した項目・手法に基づいて、環境影響評価を行った後、その結果について住民説明を行うとともに、環境の保全の見地からの意見を聴くための準備として作成されるもの

評価書

方法書や準備書に示した内容について、住民等の意見を勘案するとともに、環境の保全の見地からの意見を有する者の意見に配慮して必要に応じて変更・追加を行い、環境影響評価の結果についてとりまとめたもの

お問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所 計画課

〒950-0912 新潟市中央区南笹口2丁目1番65号 TEL:025-246-7775 FAX:025-246-7763

新潟県 土木部 道路建設課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

TEL:025-280-5845 FAX:025-285-6225